

第24回大学教育研究フォーラム
参加者企画セッション

学生の成長プロセス可視化への取り組み
(関東学院大学×ベネッセグループ共同研究)

2018年3月21日

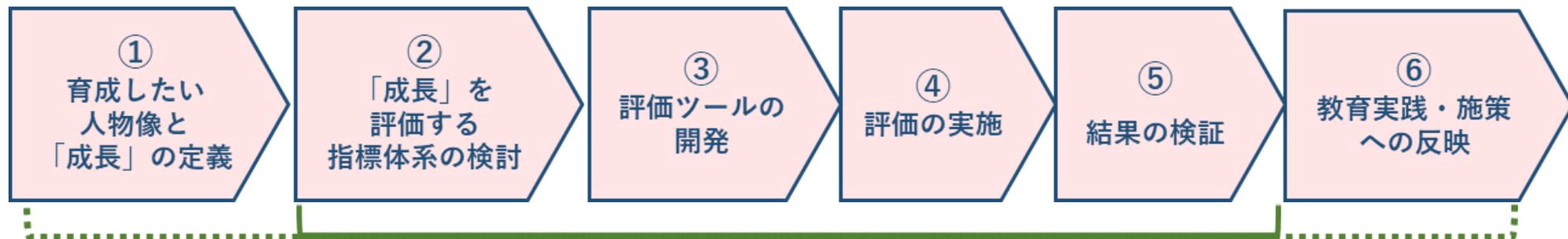
<話題提供者>

杉原亨（関東学院大学 高等教育研究・開発センター）

奈良堂史（関東学院大学 高等教育研究・開発センター）

友滝 歩（ベネッセ i-キャリア）

発表のアウトライン



1. 共同研究の背景と経緯(杉原)

2. 初年次キャリア科目の分析(杉原)

3. 初年次キャリア科目の
講座・教材開発(友滝)

4. 4年生・総まとめプログラム
の実践(奈良)

5. 教育の質向上に寄与するために
(杉原)

1. 学生の成長プロセス可視化に関する 共同研究の全体像

高等研とキャリア教育の関わり

■ 関東学院大学高等教育研究・開発センター規程

(目的)

第2条 センターは、全学的な教育支援体制に係る諸施策の企画及び開発をするとともに、組織的かつ継続的に教育内容及び教育技法の改善を支援することによって、本学の教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

□ 全学のキャリア教育科目の運営を担当

- ✓ 2012年度から全学登録必須科目「KGUキャリアデザイン入門」を開始。1年生春学期で全員受講。
- ✓ その他のキャリア教育科目(選択)も設置。

⇒ 今回の共同研究では、キャリア教育の科目を対象に調査分析を行った。

成長プロセスの可視化の目的

□成長している学生のプロセスを可視化し、特性を把握することで、教育の質向上に寄与する。

✓カリキュラムや授業改善など

□可視化したデータを教育の(内部)質保証のエビデンスとする。

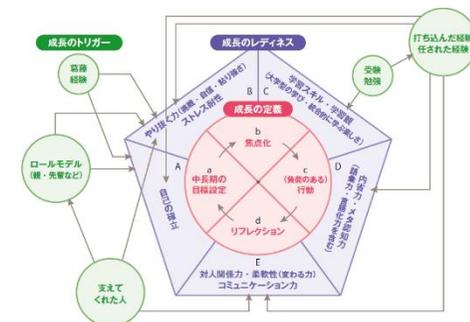
✓第3期の認証評価、自己点検など

2016年度の研究成果と課題

□2016年度の研究成果 (詳細は参照資料参照)

- ✓ 定量(アセスメント分析) + 定性(インタビュー調査)により、成長プロセスの可視化を行った。(1年から2年)

■ 図2-2 「成長」プロセスに共通する要素の構造図



□2017年度に向けた研究課題

- ✓ 大学4年間にわたる成長プロセスの可視化。
- ✓ 従来の調査手法に加え、多面的な可視化の手法の開発。

学生の成長プロセスの可視化に向けた取り組み (17年度:概要)

□初年次学生での可視化への取り組み

- ✓KGUキャリアデザインイン入門(1年生春学期)における、学生の記述情報(レポートやワークシート)の分析を実施。
- ✓分析結果を参照に教材開発(改善)などを行った。

□4年生の可視化への取り組み

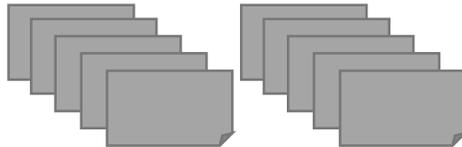
- ✓総まとめプログラム(4年生秋学期)を試行実施。
- ✓受講者は4年間学びを振り返る「自分版カリキュラムマップ」などを作成。
- ✓学びの軌跡を記録し、学生の成長を促すポートフォリオやプログラムの必要性を共有した。

2. 初年次キャリア教育科目における 成長学生の可視化に関する検証

記述情報

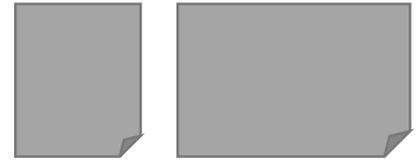
① コミュニケーションシート（10週分）

「この1週間で、大学生活を充実させるために取り組んだこと」
(ねらい：意識変容を時系列で確認)



次週の授業で、頑張りやよい気づきが見られた学生のコメントを紹介

② ワークシート



(1) 業界・企業調べ

(社会理解の程度、すべきことが明確な課題を遂行できるかどうかを確認)

(2) 学生生活の行動計画

(問題発見、課題設定、論理的な解決策の構築、成長につながる行動ができるかを確認)

③ 最終レポート

「『KGUキャリアデザイン入門』で学んだことは、あなたにとってどんな意味があったか」



(意識変容と成長につながる行動ができるか確認)

1次評価：講座担当講師

授業ルーブリックに基づき、全学生を評価。
各クラス（60～100名程度）から3名程度、行動変容や成長が見られる学生を抽出。

2次評価：研究メンバー

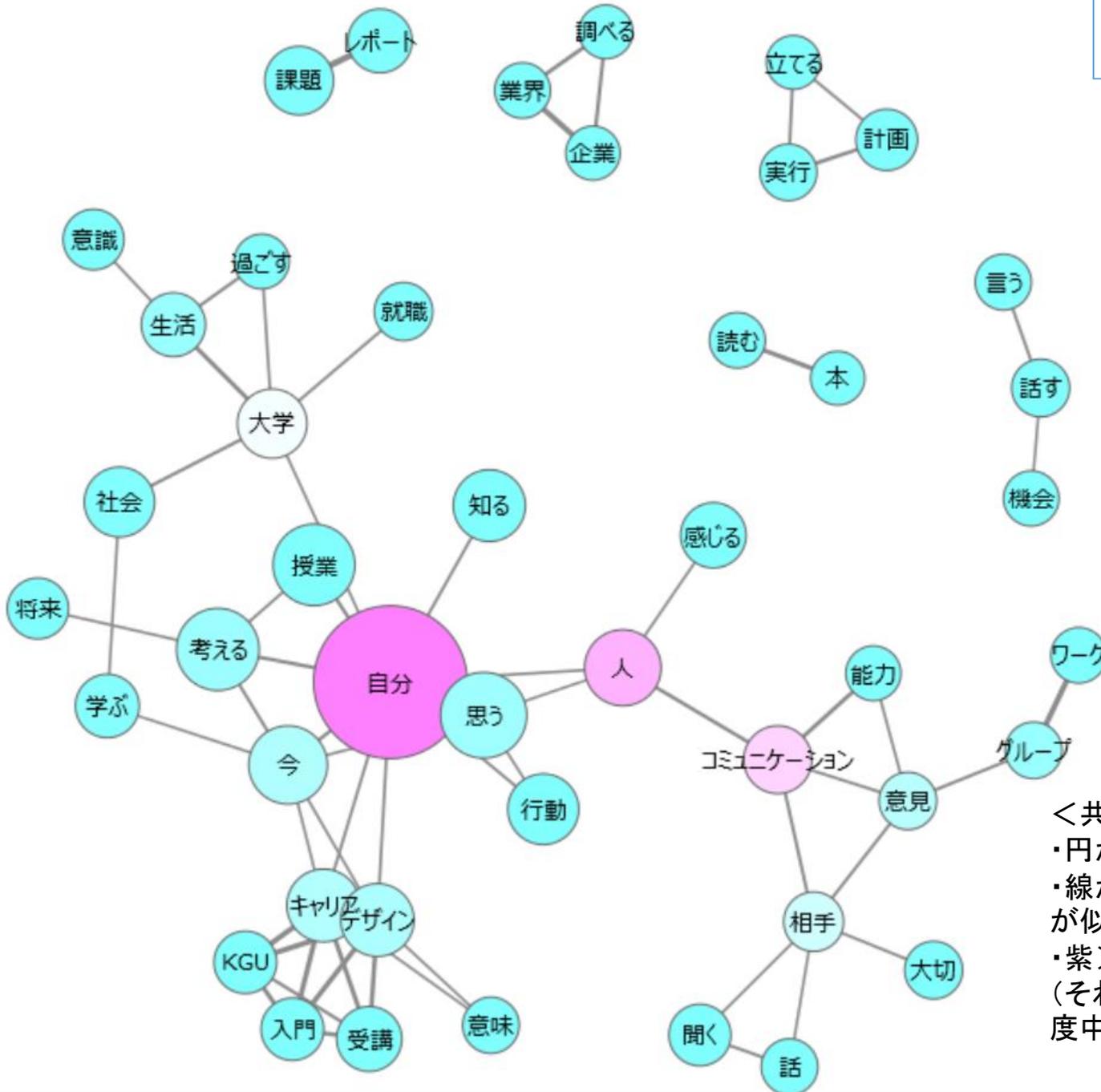
抽出した学生の記述内容を確認し、評価観点に沿って評価。

テキストマイニングによる定量分析 (コミュニケーションシート＋最終レポート)

- 対象：行動変容や成長が見られる32名の学生
- 方法：KHCoderによるテキストマイニングを実施
 - ✓ 共起ネットワーク分析で頻出語と語句の関係性を大枠で表出。
(次頁より)
- 毎回のミニレポート＋最終課題レポートを分析
 - ✓ 前半回、後半回、最終課題で時系列にて分析
 - ✓ 人文・社会科学系、理工系、資格系で学問系統別で分析

最終課題レポート

■前半回は「思う」「感じる」「考える」といった内省的な用語が中心であったが、課題レポートでは「行動」「コミュニケーション」といった語句が中心的・関連するようになった。(詳細は参照資料参照)



＜共起ネットワークの見方(樋口,2014)＞
・円が大きいほど語句の頻度数が多い
・線が太いほど共起が強い。(出現パターンが似通っている)
・紫＞ピンク＞水色＞白ほど中心性が高い。(それぞれの語がネットワーク構造でどの程度中心的な役割を果たしているかを示す)

成長プロセスの4観点での定性分析

□2016年度の研究成果である「成長プロセス」の観点で定性分析を実施(a.自己の確立、b.焦点化、c.行動、d.リフレクション)

□成長のプロセスとして、主に3つのタイプが見られた。

①将来を意識した学びと実践、②授業(目を見る・話しかけるなど)におけるPDCA、③アルバイトでの試行錯誤

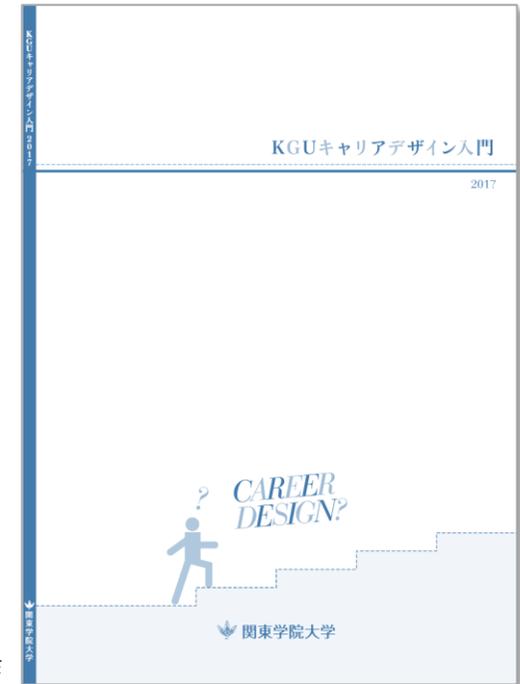
連番	学部	a自己の確立	b焦点化	c行動	dリフレクション	備考
		(将来、こうなりたいという目標がある)	(伸ばすべき力を意識している、何かに挑戦している、自分に意識的に負荷をかけている)	(目標の達成に向けて具体的な行動がある、負荷の高い行動を継続出来ている)	(自分の成長や、経験から何を学んだかを語ることができる) ※次への展望が記述されればなお良い	
1	人文系	○	○	○	○	
		海外企業に就職したい	語学力とコミュニケーション力	留学生のミーティングに参加したり、就職支援センターに足を運んでいる。	新聞記事を読み、新聞ごとの違いに気づいたり、社会人インタビューからの学びがきちんと整理されていた。	将来の目標を頭に置きながら、様々なことにチャレンジしている様子が伺えた。
2	人文系	×	○	△	△	
			語先後礼を強く意識した。	語先後礼を強く意識してアルバイトで実践して、身についたと思った。	アルバイトで実践したことを振り返っている。	授業で学んでいること、ここでは語先後礼をアルバイト先で実践している様子。
3	人文系	○	○	○	△	
		将来の海外支援、とりわけ子供の教育分野に進みたいと明確であった。	英語や第二外国語の学習に注力していた。	バイト先のトラブルを作曲的に解決した(第13回)	各回のレポートで自分の課題を記述しているが、次へのアクションや展望に関する記述は見当たらなかった。	将来の海外支援の仕事につきたいという想いが軸となって、行動を起こしているように思えた。

3. 可視化から検討した「初年次キャリア教育科目」の講座・教材開発

「KGUキャリアデザイン入門」

- ・ 大学とベネッセi-キャリアの共同実施。
- ・ 前期15回（8回をベネッセi-キャリアが担当）。
- ・ 11学部の1年生全員、約2800人が受講。3キャンパス、41クラスを23人の講師とともに運営しています。
- ・ 毎回のペアワーク、グループワークのほか、社会人インタビューやプレゼンテーションを行います。

オリジナルテキスト『KGUキャリアデザイン入門』
(A4版/72P) ベネッセi-キャリア編集制作



【到達目標】

- ① 社会で求められる力やPDCAサイクルを理解し、日々の行動で意識できる。
- ② マナーや規範を守り、積極的に人の話を聴き、自分の意見をわかりやすく伝えられる。
- ③ 自己理解、社会理解を深め、卒業後を意識した4年間の大学生活をデザインできる。

「KGUキャリアデザイン入門」

	授業内容	提出課題
第1週	オリエンテーション	
第2週	「大学生基礎力レポート」受検	(「大学生基礎力レポート」)
第3週	建学の精神・自校史①	
第4週	建学の精神・自校史②	
第5週	キャリアデザインとは？就職活動について	コミュニケーションシート
第6週	コミュニケーション力を伸ばす	コミュニケーションシート
第7週	社会に出るとは？ 社会が求める人材とは？	コミュニケーションシート
第8週	業界・業種・職種について考えよう	コミュニケーションシート
第9週	就職ガイダンス	
第10週	選挙について	
第11週	業界・企業研究 & 社会人インタビュー発表、自己発見・自己認識①	コミュニケーションシート、業界・企業研究ワークシート
第12週	自己発見・自己認識②	コミュニケーションシート
第13週	社会と学問の関係は？行動計画を立てる	コミュニケーションシート
第14週	プレゼンテーション	コミュニケーションシート、レポート、行動計画ワークシート
第15週	プレゼンテーション振り返り、授業全体のまとめ	

「KGUキャリアデザイン入門」での記述情報

① コミュニケーションシート **意識変容を時系列で確認**

よい記述内容を次週の授業でクラス全体に共有

「この1週間で、大学生活を充実させるために行動したこと・気づいたこと」

② 業界・企業研究ワークシート **社会理解、指示が明確な課題の遂行程度を確認**

「興味ある業界について、全体のトレンドや代表的な企業について調べる」

③ 行動計画ワークシート **課題設定、論理的な解決策の構築ができるかを確認**

「キャリアデザインマップをつくろう」

④ レポート **意識変容と成長につながる行動ができるかを確認**

「この授業を受講したことは、自分にとってどんな意味があったか。どのようなことに気づいたか、具体的に何か行動を起こしたかを記載してください」

1次評価：講座担当講師

授業ループリックに基づき、全学生を評価。
各クラス（60～100名程度）から3名程度、
行動変容や成長が見られる学生を抽出。

2次評価：研究メンバー

抽出した学生の記述内容を確認し、評価観点に沿って評価。

■左ページのリストの中から、興味のある業界・業種を選び、下記について調べましょう。

【 】業界						
主要企業(大手3社)						
	売上高	利益	売上高	利益	売上高	利益
主要企業の業績 過去3年間						
業界の最近のニュース	●					
	●					
	●					
	●					
	●					
その他の注目企業と 選んだ理由	[]	[]	[]	[]	[]	[]
業界の課題						
業界の将来性						

【 】業界						
主要企業(大手3社)						
	売上高	利益	売上高	利益	売上高	利益
主要企業の業績 過去3年間						
業界の最近のニュース	●					
	●					
	●					
	●					
	●					
その他の注目企業と 選んだ理由	[]	[]	[]	[]	[]	[]
業界の課題						
業界の将来性						

② 業界・企業研究ワークシート

興味ある業界を設定

主要企業を特定、IR情報などから売上・利益を抽出

多様なメディアにアクセス、業界に関するニュースを選びとる

その他の注目企業の選定、理由の記述

ネット情報などから業界の課題、将来性分析を抽出、端的にまとめる

● 調べたことを適切に取捨選択し、緻密に記述できている

● 与えられた課題に誠実に向き合い、確実に遂行できている

コミュニケーションシート

第 回	学籍番号	学部		学科	
	氏名	クラス	担当講師名	曜日	時
①今日の授業に積極的に参加し、人の話を聴き、自分の意見を伝えられたか? できた・しようとしたがうまくできなかった・しなかった					
					点

① コミュニケーションシート

「この1週間で、大学生活を充実させるために行動したこと・気づいたこと」を記述

- 意識したこと、自分なりのチャレンジとなる行動など、多様な記述が見られる。
- 回を重ねるごとに、自分を知り、社会を知ることですべきことに気づき、行動に移したという意識変容が見られる。

④ レポート

この授業を通してどのようなことに気づいたか、具体的に何か行動を起こしたかを記述

- 自分を知り、社会を知ること意識が変わったという記述が多く見られる。
- とにかく色々行動した、という記述に留まっているものも多い。

③ 行動計画ワークシート

学籍番号

氏名

KGU キャリアデザイン入門

第13回 行動計画を立てる **Work**

キャリアデザインマップをつくろう

それは、実際にキャリアデザインマップをつくってみましょう。
Step1では、今までのWorkを振り返って自分の強みや課題、
興味のある仕事を整理します。Step2で今後の目標を設定し、
Step3では具体的な行動計画に落とし込んでみましょう。

ATTENTION

- 行動計画ができたから、その実現に向けて積極的に活動を始めましょう。
- ここで設定した目標は、具体的な行動計画は、定期的に見直し、変更する必要があれば随時修正しましょう。
- 次回自分のキャリアデザインマップの内容をクラスメイトの前でプレゼンテーションします。プレゼンテーションをスムーズにするためにも、自分の将来をよく考え、納得したうえで記入しましょう。

STEP 1 現状の整理

今の自分について客観的に考え、各項目の内容を整理し、整理してみましょう。

1 学生生活でやってみたいこと

① ② ③

2 私の強み (得意なこと)

① ② ③

3 私の課題 (苦手なこと)

① ② ③

4 興味のある仕事

① ② ③

STEP 2 目標設定 (大学卒業まで)

①学問分野において目標を設定し、②目標達成のために必要な知識や力を洗い出す。

目標 (どのような状態になっているか)	必要となる知識や力など
①学問分野において 例) プログラミングに詳しくなる。	① 英語読解力、論理力、文化理解力、自主学習力
②専門分野において 例) 特定の企業や業界と交流し、交流に繋がっている。興味分野に 関心を持っている。	① 英語力 (TOEIC700点)、ITスキル、コミュニケーション力、柔軟な発想力
③将来の仕事において 例) 海外のオポチュニティがある企業で、業務内容にやりがいを感じる。	① 英語読解力、異文化理解力、世界・企業研究、プログラミング能力

STEP 3 行動計画

先ページで設定した目標について、自分の強みや得意分野を活かしながら達成する方法を考えましょう。具体的に何をすればいいか、いつまでにやるのかを書きましょう。また行動を起こすための最初の一歩を記入しましょう。

具体的な取り組み	いつまでに	行動を起こすための最初の一歩
例) ① 英語、キーワードになる科目の得意分野の授業に積極的に参加する。	1 年以内までに 企業見学や インターン参加	① サークル参加する。 イベントに参加する。
例) ② 学生会の交流サークルに入る。サークルで得意分野のスキルを磨く。TOEICを勉強する。	1 年以内までに 企業見学や インターン参加	① サークル参加する。 イベントに参加する。
例) ③ 調査にかかわる企業の情報を集める。調査に必要なスキルを身につける。	3 年以内までに	① 得意分野から、インターンシップから応募する。

やってみたいこと

自分の強み・課題

仕事に対する興味

現状認識を踏まえ、大学生活の目標を設定

必要な知識や力を洗い出す

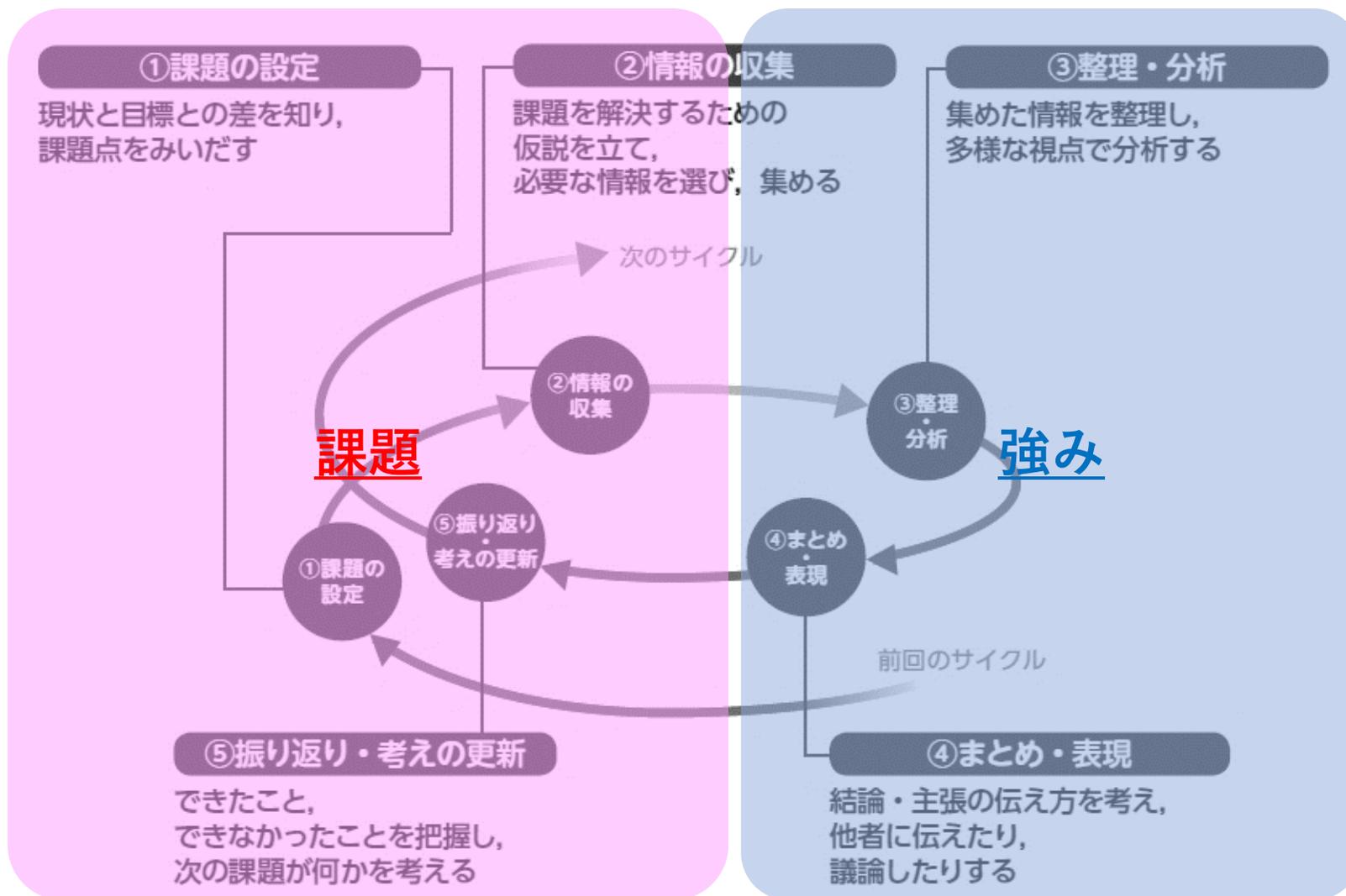
具体的な取り組みと期限

最初の一步

- 現状認識と目標設定の間のつながりが弱い。
- 目標設定が曖昧なものが多い（「コミュニケーション力を鍛える」など）。
- 効果的な取り組みを複数挙げ、検討した痕跡がない。

89

大学での学びと社会で必要な「問題解決のサイクル」をまわす力



思考力アセスメント『GPS-Academic』事後教材（ベネッセi-キャリア）より

シラバス改訂

	授業内容
第1週	オリエンテーション
第2週	「GPS-A」受検ガイダンス
第3週	建学の精神・自校史①
第4週	建学の精神・自校史②
第5週	キャリアデザインとは？就職活動について
第6週	コミュニケーション力を伸ばす、社会に出る
第7週	社会が求める人材、業界・業種・職種とは？
第8週	業界・業種・職種研究 & 自己発見・自己認識①
第9週	社会人インタビュー & 自己発見・自己認識②
第10週	社会と学問の関係は？
第11週	行動計画を立てる
第12週	プレゼンテーション
第13週	就職ガイダンス
第14週	選挙について
第15週	授業全体のまとめ

行動計画の立て方を学ぶ時間を拡大。問題解決サイクルを自分の問題にあてはめながら実践させます。

- ・現状分析から課題設定への論理的つながり
- ・目標設定の数値化・具体化
- ・解決策を複数洗い出し
- ・期限から逆算したスモールステップづくり

「行動計画の立て方を学ぶ」ワークシートの導入

第11回

行動計画を立てる

Work

計画の立て方のコツをつかもう

計画をうまく立てられない、計画倒れで終わってしまうなど、苦手意識を持っている人も多いかもしれません。ここではうまくいかない例をもとに、計画を立てるコツを身につけていきましょう。STEP1の改善例を見て、STEP2では実際に改善策を考えてみましょう。

! ATTENTION

- 多くの社会人も仕事をするにあたって、いつまでに何をどの程度達成するか、行動計画を立て実行しています。その結果が評価・報酬に反映されます。
- 計画立案にはコツがあります。期限から逆算すること、すべきことを具体的に、スモールステップに分解することです。
- 一度立てた行動計画は絶対ではありません。PDCAを繰り返し、定期的に見直し、改善をしていきましょう。

Step 1 以下の「成長につながりにくい行動計画」の改善例を確認しましょう



具体的な取り組みを複数挙げさせる

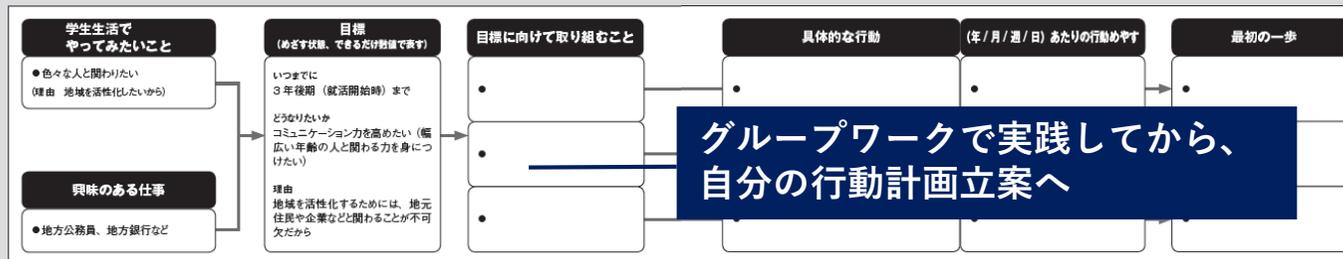
理由を考えさせる

現状認識とのつながりを意識させる

いつまでに、どうなりたいかを具体的に記述させる理由を書くことで現状認識とのつながりを再確認

TODOをスモールステップに分解

Step 2 以下の「行動計画」例を成長につながるものとするために



グループワークで実践してから、自分の行動計画立案へ

4. 総まとめプログラムでの学習成果の 可視化に関する検証

総まとめプログラムの背景

- 関東学院大学とベネッセグループが、大学生の成長に関する共同研究を実施。
(2016年度～現在)

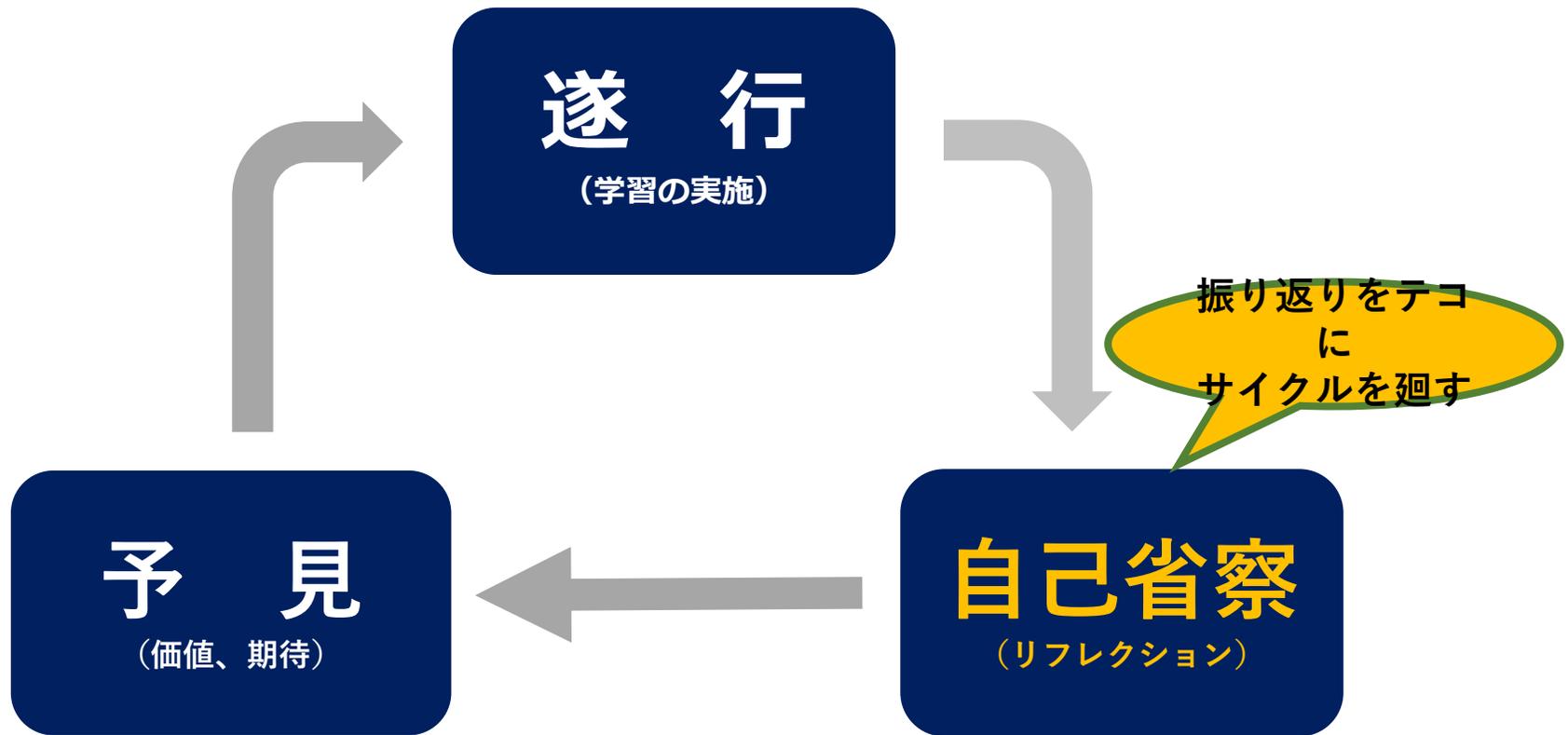


- “成長”の重要な側面 **「学習の自己調整」**
- 4年間の学びを自身で振り返り・総括するような科目が大学にも必要なのでは？
⇒本日のトライアルでやってみよう！

「自己調整学習」のサイクルモデル



(出所) Zimmerman = Schunk [2011] より作成。

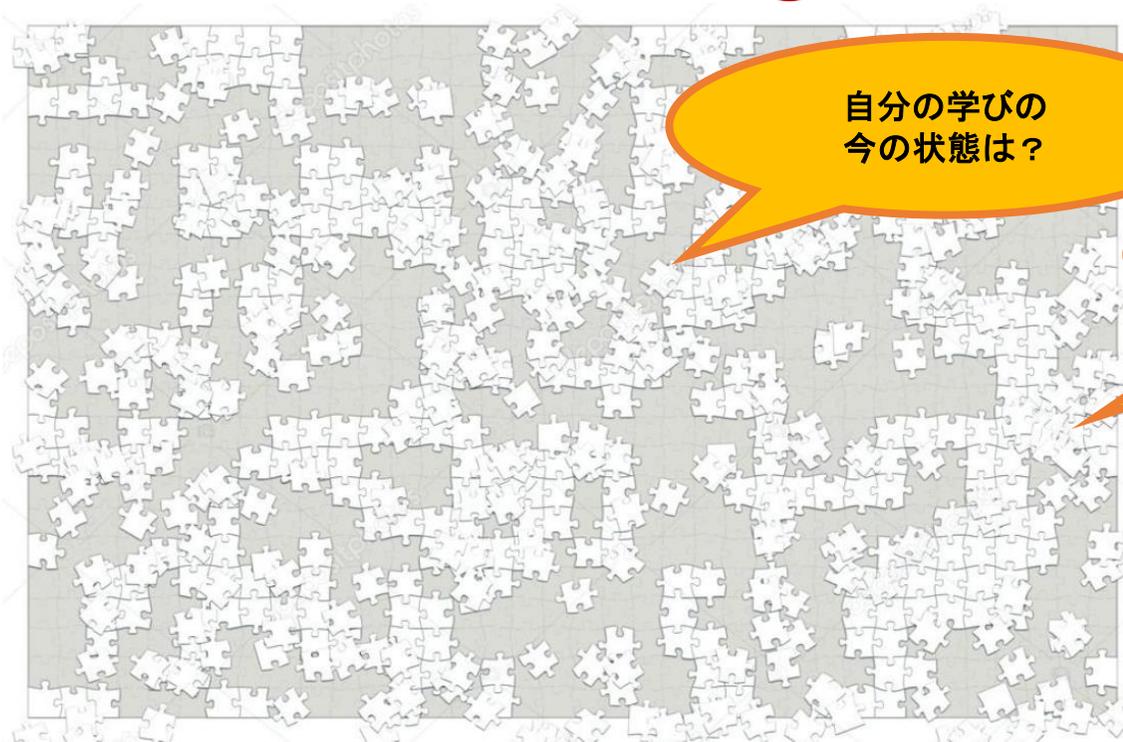


プログラム開発への想い

- 最終学年の4年生に必要なこと
⇒4年間の学びを総括してまとめ、社会人としての学びに「**見通し**」を持つこと！
- 卒論って、本当に4年間でまとめている？
⇒ **「能力」のまとめにはなっている！**
(論理的思考力、課題発見力、文章力、構成力、分析力、計画力、プレゼン能力、批判的思考力……等々)
⇒ **「知識」のまとめが必要 “真の総論”**

パズルのメタファー

- 大学時代の学びは「生涯学習」の途中
⇒ 大切なのは、
 - ① 過去を振り返って、
 - ② 現状を把握して、
 - ③ 次の学びを見通すこと



自分の学びの
今の状態は？

どこが完成していて、今後ど
こを埋める？



そこで、総まとめプログラムでは・・・

大学4年間で(あるいはこれまでの人生で)

- 何をして
- どんなことを考え
- 何を得たのか

振り返って言語化していただきます。

しつこいほどに

※ このプログラムは、2か月8週をかけて実施、または3日間の集中科目として想定しています。

総まとめプログラムの到達目標

- ①自身の大学での**学びを総括**し、自分の言葉で**語る・書く**ことができる。
- ②自身が専門・教養科目を通じて**身に付けた能力**を具体的かつ**明確に列挙**することができる。
- ③大学生生活の振り返りを通じて、**自分自身の特性（強み・弱みなど）を整理**することができる。
- ④**社会で必要な力**を、自分の**進路先と関連づけながら説明**することができる。
- ⑤これまでの行動を踏まえて、今後のキャリアビジョンを描いて、**行動計画を作成**することができる。

半セメスター8コマの内容を1日に圧縮して実施 ※実施日：11/23（木・祝）

	コンテンツ	時間		担当	ワーク	
					事前課題	当日課題
◆	趣旨説明、本日の流れの確認	10:00～10:10	10分	奈良		
1	モチベーションチャート（+自己紹介）	10:10～10:40	30分	岡田	①	
	<休憩>		5分			
2	学びの意義・意味	10:45～11:55	70分	佐藤	アセス	(1) (2)
	<ランチ（お弁当・お茶を提供）>		60分			
★	テスト：日本語理解・英語運用・数的推論	12:55～13:30	35分	松尾		
	<休憩>		5分			
3	キャリアビジョンを描き、行動計画を作成する	13:35～14:25	50分	杉原	②	(3) (4)
4	社会で必要な力とは？	14:25～15:20	55分	松尾 田上	③ アセス	(5) (6)
	<休憩>		5分			
5	まとめ：卒業後も成長し続けるために…	15:30～15:50	25分	岡田		(7) (8)
◎	座談会：ワークシート・授業進行の改善点	15:50～16:50	60分	奈良		

総まとめプログラムの実施

参加者数 17名

- ・ 法学部 5名 (男3・女2)
- ・ 経済学部 5名 (男3・女2)
- ・ 文学部 2名 (男1・女1)
- ・ 理工学部 3名 (男3)
- ・ 人間環境学部 2名 (男1・女1)

※資格取得を目的とする看護、教育、栄養学部を除く学部から、バランスよく参加

※現時点での進路
企業・団体への内定決定 (11名)
教員採用試験再挑戦 (4名)
大学院進学 (2名)

募集方法

- ・ 協力いただける先生のゼミで告知
- ・ 学内LMSを通じた掲示、メールでの告知
- ・ 学習支援センターへのポスター掲示 など



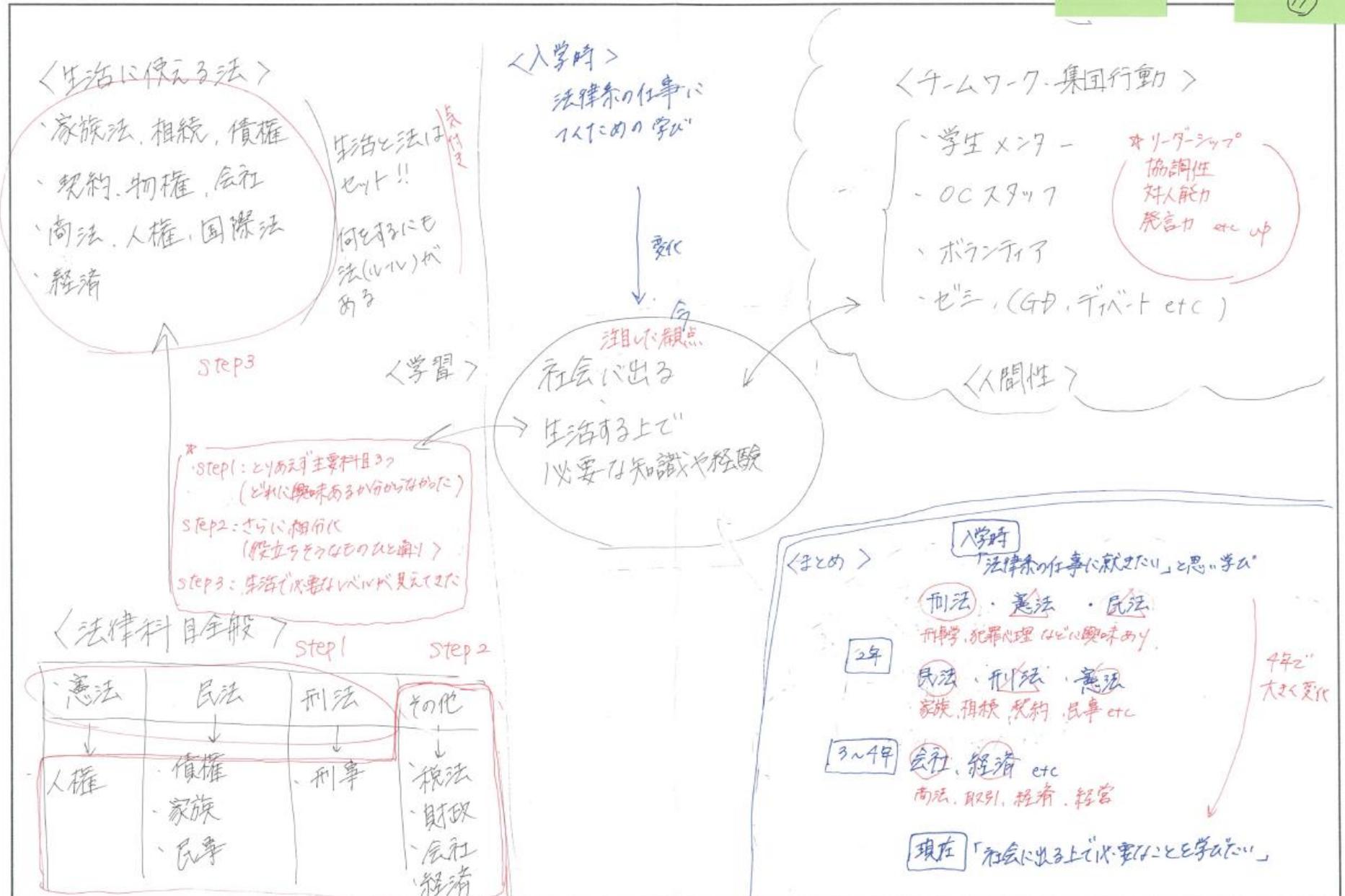
<実施側メンバー>

大学：杉原先生 奈良先生 (出石副学長)
i-キャリア：松尾さん、田上さん (友滝さん)
教研：佐藤さん、岡田

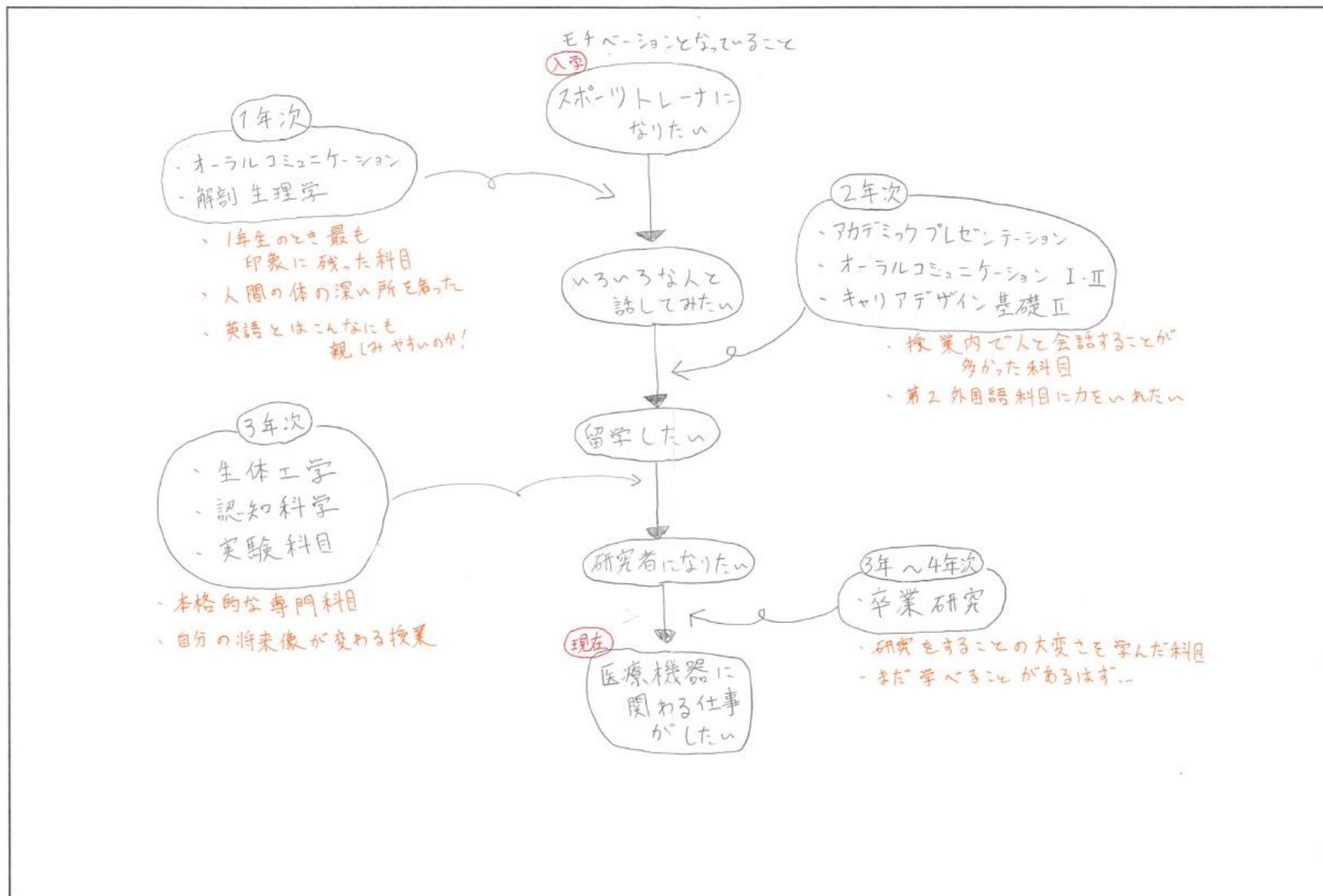
参加者の傾向 (入学時のアセスメントデータから)

- ・ 一般入試、センター試験利用入試での入学者が多い
- ・ 17人中14人が大学志望度「第3志望以下」 (1名は入学年度が異なるため受検なし)
- ・ 基礎学力 (国・英・数) の平均偏差値は、全学平均より4ポイント高い (全学46<参加者50)
- ・ 意識面も、全学平均と比べて総じて高い など

どのような情報を取得したのか？（可視化）



どのような情報を取得したのか？（可視化）



5. 可視化から教育の質向上に 寄与するために

□ 総まとめプログラムで可視化した学生の学習成果を、ルーブリックなどで評価する。

⇒可視化だけでなく「評価」もセットで開発する。

□ 評価はDPと紐づける。既存のカリキュラムマップに組み込めるように。(以下、総まとめプログラムでの検討内容)

・到達目標1:自身の大学での学びを総括し、自分の言葉で語る・書くことができる。

(DP1:自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている:幅広い教養)

・到達目標4:社会で必要な力を、自分の進路先と関連づけながら説明することができる。

(DP10:社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を持っている:社会参加への主体性)

(DP12:問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている:建学の精神の実践、奉仕動機)

・到達目標5:これまでの行動を踏まえて、今後のキャリアビジョンを描いて、行動計画を作成することができる。

(DP9:生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を有している:生涯学び続ける意欲)

(DP10:社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を持っている:社会参加への主体性)

□ 入門や総まとめの学習成果をポートフォリオなどで記録し活用する。

⇒記録するだけでなく、教職員が「指導」に活用できる仕組みづくりが大切。(例.就職ガイダンスなど)

⇒上記の情報だけでなく、学内の多くの情報(成績など)との関連も考える。

⇒初年次で判明した成長学生がどのような学生生活を過ごしているか経年で観測し、指導へ生かす。

□ 学びの振り返りは、「専門への取り組み」を深めることが望ましい。

⇒学びの振り返りをする際には、専門の教員からの指導があればより深くなる。

⇒学部のカリキュラムに沿って考える。

キャリアデザイン科目への貢献（総まとめプログラム）

★関東学院大学 就職支援センター★

希望する進路の実現に向けて、1年次から総合的なサポートを実施していきます。特に3年次からは、就職活動に必要な力を身につけるための就職支援プログラムをひとりひとりの学生に合わせ実施します。

決める・旅立つ

4年生

★4年生秋学期での実施

★学びの振り返りとして
2・3年次でのオリエンテーションでの簡易的な実施も想定

⇒学生自身の振り返りや、教職員の指導の観点から、**単年だけでなく、「継続的・複数回」のプログラムの実施が望ましい。**

KGUキャリアデザイン科目



知る・考える

1年生

大学生から社会人へ
STEP UP!

深める・見える

2年生

KGUキャリアデザイン基礎Ⅱ

KGUキャリアデザイン応用Ⅰ



探す・動く

3年生

KGUインターンシップⅠ（事前）

KGUインターンシップⅡ（実務）

<就職支援>

- ・就職ガイダンス
- ・模擬試験（一般常識、SPI、エントリーシート）
- ・各種講座（自己分析、企業の選び方、面接対策）
- ・学内企業説明会

～ KGUキャリアデザイン入門受講生の声 ～

- これから先の長い人生の中で、どのようなことが必要かをリアルに教えてもらえた。
- 将来のこと、大学での過ごし方についてすごく勉強になった。これからの過ごし方がすごく変わると思う。
- みんな「海外」など目標は大きく、野望をもっていると感じた。自分は少し現実的すぎると思う。 など

KGUキャリアデザイン入門

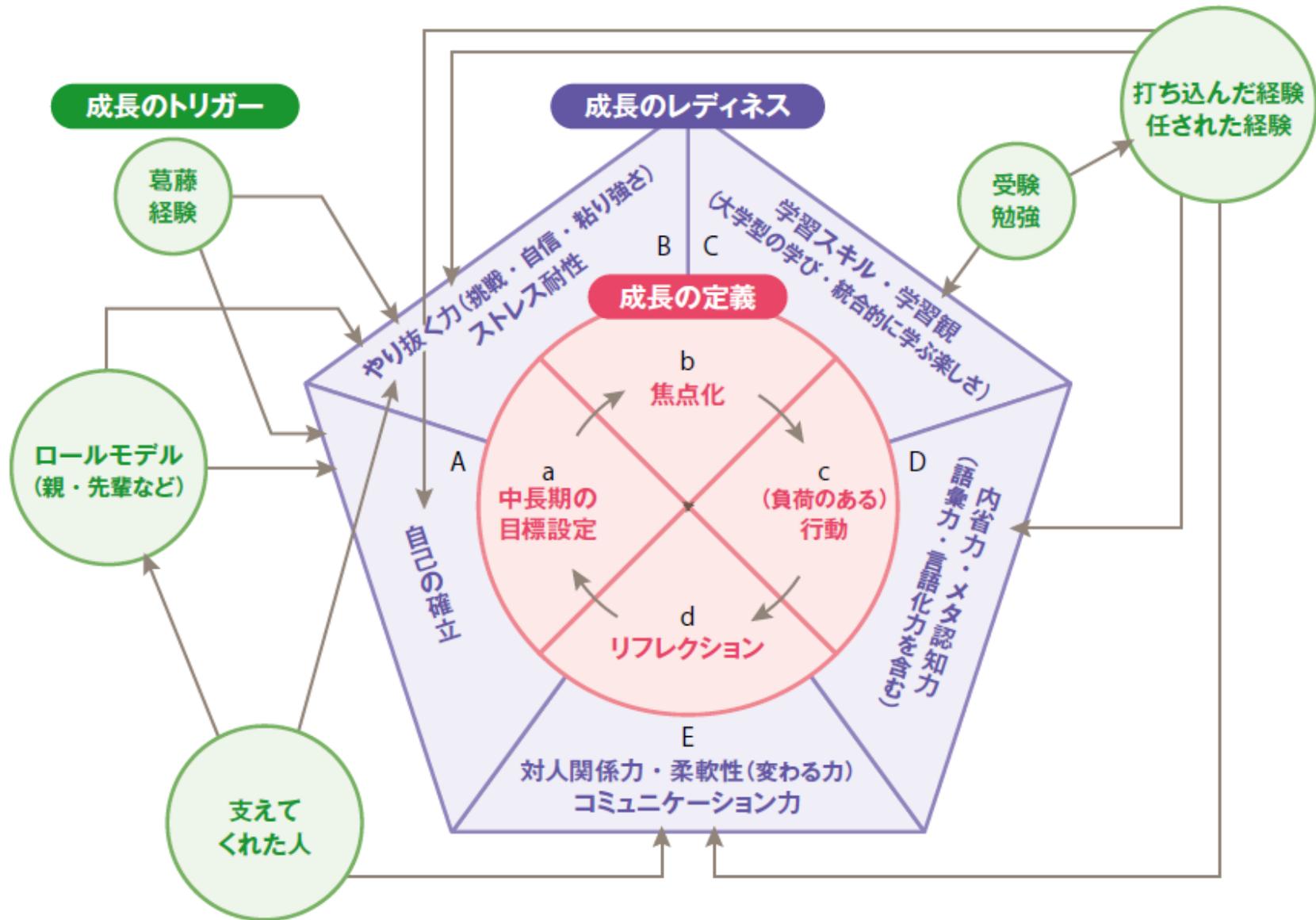
KGUキャリアデザイン基礎Ⅰ

大学4年間の成長の幅

参照資料

■ 図2-2 「成長」プロセスに共通する要素の構造図

引用：関東学院大学、ベネッセ教育総合研究所、ベネッセi-キャリア(2017)
『学生の成長プロセスを可視化する実践的研究』P10
<http://berd.benesse.jp/feature/focus/17-report/>



トリガー = 成長のきっかけ

- 自己認識を深める機会
(何かに打ち込む、価値観の対立を経験する、など)
- 人生の意味を考える契機
(友人の病気、身近な人の死など)
- 親の働く姿、生き方・考え方に触れる機会
- 困難を乗り越えた経験
- 役割を任された経験
(部活・受験・アルバイトなど)
- 困難なときに支えてくれる人がいた
(友人・親・先生など)
- すごいと思える人が身近にいた
(友人・先輩・親など)
- 学習をサポートしてくれる人がいた
(学校・塾・支援室の先生など)
- よい授業、先生との出会い
(学ぶ楽しさ、科目間のつながりを見せてくれた)
- 高校と大学の学習スタイルの違いを認識する機会
(テスト・レポート、失敗経験など)

レディネス = 成長のための土台(能力要素)

※同じ場においても、「成長」に至るかどうかの違いを生む要因

自己の確立

- 自己理解ができている(得意、好き、価値観など)
- ロールモデルやキャリアビジョンの存在

やり抜く力・ストレス耐性

- 失敗を恐れず挑戦する
- 困難に直面してもくじけない
(自信・しなやかさ・粘り強さ)

対人関係力・柔軟性・コミュニケーション力

- 他者と一緒に学べる
- 感謝できる
- 他者から刺激や情報を得る
- 助言や忠告を受け止められる

内省力・メタ認知力・語彙力・言語化力

- PDCA を回すことができる
- 深く学ぶことができる、経験から学べる

学習スキル・統合的に学ぶ楽しさの理解

- 問いを立てて情報を集めて論じる、という大学型の学びに適應できる

「成長」に向かう姿 (成長の定義)

中・長期の目標設定

- 将来、こうなりたいという目標がある

行動の質と量

焦点化

- 伸ばすべき力を意識している
- 何かに挑戦している、自分に意識的に負荷をかけている

行動

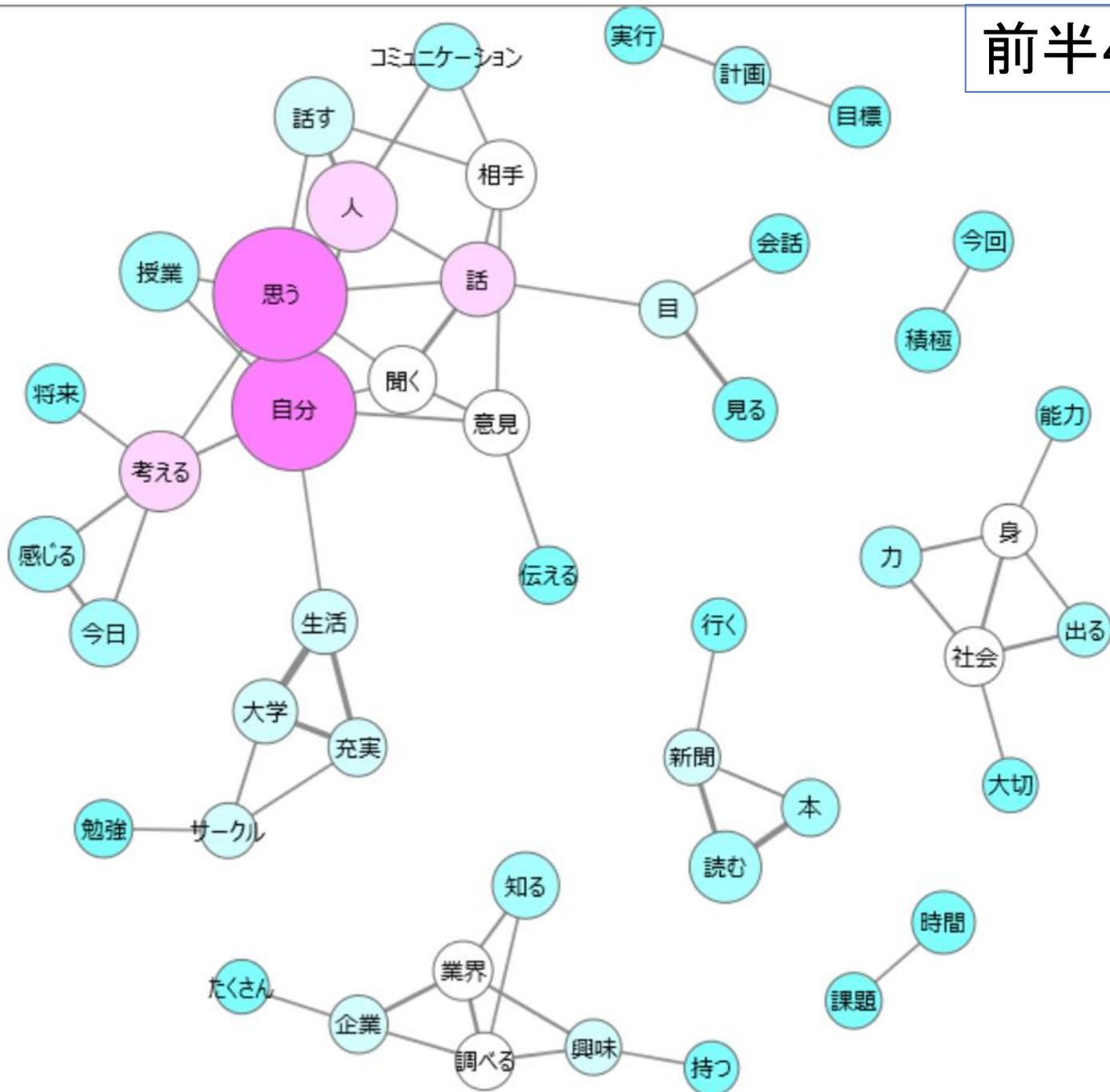
- 目標の達成に向けて、具体的な行動がある
- 負荷の高い行動を継続できている

リフレクション

(言語化・意味づけ)

- 自分の成長や、経験から何を学んだかを語ることができる

前半4回(5・6・7・8回)



＜共起ネットワークの見方
(樋口,2014)＞

- ・円が大きいほど語句の頻度数が多い

- ・線が太いほど共起が強い。
(出現パターンが似通っている)

- ・紫＞ピンク＞水色＞白ほど中心性が高い。(それぞれの語がネットワーク構造でどの程度中心的な役割を果たしているかを示す)

後半4回(11・12・13・14回)

